

文教大学湘南キャンパスの学生の実態—ゼミ調査の結果から

Students' Lives in Bunkyo Shonan Campus

— based on the survey results of the students —

中西尚道

Naomichi Nakanishi

文教大学湘南キャンパスでは、情報学部・国際学部、それに女子短期大学部のおよそ五千人の学生が勉学や課外活動などの学生生活を送っている。このキャンパスで生活している現在の学生はどのような問題に関心を持ち、どのような考え方をしているのか、学生の生活と意識の一面を、調査の結果から考察することにした。

ここで使用するデータは、私が担当している「社会調査」ゼミで実施した文教大学湘南キャンパスの学生を対象とした調査の結果である。このゼミでは、毎年、学生たちの発議によって、調査テーマを選定し、調査内容、調査項目の検討から、調査の実施計画を立てて、調査を実施している。そして、その調査結果の主要部分については、例年の聳塔祭で発表している。

なお、この調査は、湘南キャンパスの学生を対象とし、調査対象日の第1時限と第2時限の開始時に、登校する学生に調査票を配付して調査を実施しているのので、一応キャンパスの学生を代表するサンプルをカバーしていると思われる。しかし、一般に調査票の回収率が低く、回答率が十分でないケースが多いので、統計的な精度は必ずしも保障されていないが、今日の学生生活の傾向を把握するために、このことを念頭に置いた上で、データを使用することにする。

使用した調査のテーマと調査実施年度は次のとおりである。

『真面目にTABOOを考える』	平成4年度調査
『サークルについての調査』	平成5年度調査
『学生アルバイトについての調査』	平成6年度調査
『お金とお酒についての調査』	平成7年度調査
『学生と電話・通信についての調査』	平成8年度調査

1. 課外活動について

(1) 『サークル』への加入の実態と加入の動機

この場合、『サークル』の中には、体育会・文化会の部と、同好会のサークルをすべて含むものとして扱っている。体育会の部に入っている学生は11%（男子6%、女子12%）文化会の部に入っている学生は14%（男子13%、女子14%）で、それほど多くない。これに対して、同好会のサークルに入っている学生は60%（男子68%、女子58%）で、過半数の学生が同好会のサークルに加入していることが分かる。どれにも入ったことがない学生は8%（男子7%、女子9%）で、非常に少ない。

規則・規律や伝統を重んじる体育会・文化会の部に入るよりも、楽しい雰囲気と友人と仲よく過ごすことを求めるサークルへ加入することを求める風潮があることは指摘されていたが、サー

クルへの加入の実態は明らかにこの実態を示している。

サークルに加入している者に対して、加入の動機を尋ねた結果を、回答の多かった順に示すと、次のとおりである。

- ① 大学生生活を充実させるため 29% (男子27%、女子31%)
- ② 活動内容に興味があったから 26% (男子32%、女子24%)
- ③ 何となく楽しそうだから 13% (男子10%、女子14%)
- ④ 友達を作るため 10% (男子10%、女子10%)
- ⑤ 周りの人たちが入ったから 9% (男子6%、女子10%)

「大学生生活を充実させるため」という動機が最も多いが、大学生にとって、課外活動、サークルというものが如何に意義のあるものであるかが示されている。「活動内容に興味があるから」という動機もかなり多いが、自分が関心を持っていることを一緒にやってゆこうとする気持がサークルを支えているものと思われる。

「異性の友達を作るため」を動機としてあげた者はわずか1%で、これが第一の理由でサークルに入る者は非常に少ない。

(2) 『サークル』の充実感と満足感

サークルに加入している学生が入っているサークルにどの程度充実感を感じているかを調べた結果は次のとおりである。

- ① 非常に充実している 12% (男子17%、女子9%)
- ② かなり充実している 21% (男子23%、女子20%)
- ③ まあ充実している 39% (男子37%、女子39%)
- ④ あまり充実していない 16% (男子10%、女子19%)
- ⑤ 充実していない 6% (男子7%、女子6%)

「非常に充実」と「かなり充実」を合わせると3分の1の学生が充実していると思っている。「まあ充実している」と思っている学生が最も多く、サークル活動は現在の学生にとって一応うまく行っているものと思われる。また、充実していると感じている者は、女子に比べて、男子の方にやや多くみられる。

サークルに入って最も良かったと感じるのはどんな時か調べた結果を、回答の多かった順に示すと次のとおりである。

- ① 友達の輪が広がる時 30% (男子10%、女子34%)
- ② 友達と一緒に行動する時 23% (男子18%、女子24%)
- ③ イベントが成功した時 15% (男子17%、女子15%)
- ④ いい汗を流した時 8% (男子11%、女子6%)
- ⑤ 飲み屋で楽しく過ごす時 8% (男子10%、女子7%)
- ⑥ 対外試合で勝った時 6% (男子14%、女子3%)

「友達の輪の広がり」と「友達と一緒にの行動」の両方で過半数を超える。つまり、友達というものがあることがサークルのいちばん大切な要素であることが分かる。女子の場合は、この傾向がもっとも顕著である。「イベントが成功した時」「いい汗を流した時」「対外試合に勝った時」など具体的な行動や結果で良かったと感じる者も少なくない。このような場合に良かったと感じる者は、女子に比べて男子の方に多くみられる。

(3) サークルへの不満

サークルに入っていて「大いに不満がある」と「かなり不満がある」を合わせても13%でそれ程多くないが、「少し不満がある」は39%（男子42%、女子38%）でかなりいることが分かる。現在のサークルに対して、はっきりとした不満を持っている者は少ないが、十分に満足している状態ではないように思われる。

不満の内容については、「サークルの運営や活動」をあげる者が33%（男女とも33%）で最も多く、「施設・設備の不十分」「先輩の態度や行動」「同僚の態度や行動」をあげる者がそれぞれ11%で、施設や人間関係に対する不満がある程度みられる。このうち、施設に対する不満は男の方に多く、人間関係に対する不満は女子の方に多くみられる。

(4) サークルに対する評価

サークルに対する評価を、サークルに入っていない学生からみた「サークルに入っている人のイメージ」とサークルに入っている学生からみた「サークルに入っていない人のイメージ」で比べると、非常に対照的である。

サークルに入っていない学生で「サークルに入っている人の学生生活は充実していると思う」者が63%（男子57%、女子65%）であるのに対して、「充実していないと思う」者はわずか1%に過ぎない。つまり、サークルに入っていない学生の大部分は、サークルに入っている学生の生活は充実していると思っている。

一方、サークルに入っている学生で「サークルに入っていない人の学生生活は充実していると思う」者は10%であるのに対して、「充実していないと思う」者は30%（男子35%、女子27%）で、サークルに入っていない学生の生活は充実していないと思う者が多くなっている。つまり、サークルに入らない学生には欠けているものがあるとみられているように思われる。

サークルに入っていて良かったかどうかについて尋ねた結果は次のとおりである。

- | | | |
|----------------|-----|---------------|
| ① たいへん良かったと思う | 43% | (男子51%、女子39%) |
| ② かなり良かったと思う | 17% | (男子17%、女子16%) |
| ③ まあ良かったと思う | 29% | (男子26%、女子31%) |
| ④ どちらとも言えない | 6% | (男子3%、女子8%) |
| ⑤ あまり良くなかったと思う | 2% | (男子1%、女子3%) |

サークルに入っていて良かったと思う学生が圧倒的に多く、学生生活の中でのサークルの持つ意味が非常に重要であることが分かる。特に男子の場合は、過半数の学生が、サークルに入っていてたいへん良かったとしており、サークルに対する評価は女子に比べて、男子の方が高いことを示している。

2. アルバイトについて

(1) アルバイトの経験と仕事の種類

今日の学生にとって、アルバイトとのつき合いは欠かせないもののように思われるが、現在アルバイトをしている実態ならびに過去の経験を調べた結果は次のとおりである。

- | | | |
|--------------|-----|-----------------------|
| ① 現在2つ以上している | 13% | (男子9%、四大女子17%、短大14%) |
| ② 現在1つしている | 58% | (男子55%、四大女子58%、短大66%) |

- ③ 以前していたことがある 25% (男子34%、四大女子22%、短大15%)
 ④ したことはない 3% (男子 2%、四大女子 3%、短大 4%)

96%の学生がアルバイトの経験があり、71%の学生が現在アルバイトをしている。現在アルバイトをしている人の割合は、短大生が最も高く、次いで四大女子で、男子は最も低い。男子の場合は、以前アルバイトをしていたが、現在はしていない者が比較的多い。

アルバイトの仕事の種類を、現在しているものと、経験したことがあるものに分けて示すと次のとおりである。

	[現在している]	[経験したことがある]
① 販売職	27% (男子20%、女子30%)	46% (男子38%、女子49%)
② レストラン・喫茶店	20% (男子17%、女子22%)	46% (男子36%、女子52%)
③ サービス業	15% (男子21%、女子12%)	30% (男子33%、女子28%)
④ 居酒屋・飲み屋	8% (男子10%、女子 6%)	15% (男子17%、女子14%)
⑤ 家庭教師・塾の講師	5% (男子 4%、女子 6%)	15% (男子14%、女子16%)
⑥ イベントのアシスタント	4% (男子 5%、女子 4%)	14% (男子19%、女子12%)
⑦ 運送・配達業	4% (男子 9%、女子 1%)	13% (男子27%、女子 6%)

現在している仕事、経験したことがある仕事のいずれも、「販売職」「レストラン・喫茶店」「サービス業」が多い。特に、女子学生の半数は、販売職やレストラン・喫茶店のウェイトレスを経験している。大学生の知識や経験を生かした「家庭教師・塾の講師」の仕事をしている者は比較的少なく、都市型の販売・サービス業に関係する仕事をしている者が圧倒的に多い。これらの中には、夜間の仕事も多く含まれ、コンビニの販売係などは徹夜の勤務になることもあるので、大学の勉学との両立に問題の生じる場合もあると思われる。

(2) アルバイトの時間

週のうち、アルバイトをしている日数は次のとおりで、週に3日から4日アルバイトをしている者が半数を占めている。

- ① 5日以上 14% (男子18%、四大女子 8%、短大17%)
 ② 3日から4日 51% (男子50%、四大女子58%、短大45%)
 ③ 2日ぐらい 21% (男子16%、四大女子22%、短大25%)
 ④ 1日または決まっていない 13% (男子14%、四大女子13%、短大12%)

1か月のアルバイトの時間は次のとおりで、30時間から60時間程度の者が多い。男子学生にはアルバイトの時間の長い者が比較的多いのにに対して、短大生の場合は、アルバイトの時間の短い者が比較的多い。

- ① 30時間以下 19% (男子15%、四大女子16%、短大25%)
 ② 31時間から60時間 37% (男子32%、四大女子44%、短大39%)
 ③ 61時間から90時間 27% (男子25%、四大女子30%、短大23%)
 ④ 91時間以上 15% (男子25%、四大女子 9%、短大 9%)

アルバイトをする時間帯は次のとおりで、当然のことながら、夕方から夜にかけての時間帯が最も多くなっている。短大生には昼間アルバイトをしている者が比較的多いのにに対して、男子学生には、深夜のアルバイトをしている者もかなりみられる。

- ① 早朝 (5時—9時) 6% (男子 8%、四大女子 3%、短大 8%)

- ② 午前中 (9時—12時) 9% (男子9%、四大女子6%、短大13%)
- ③ 午後 (12時—17時) 15% (男子6%、四大女子15%、短大24%)
- ④ 夕方・夜 (17時—22時) 61% (男子50%、四大女子74%、短大55%)
- ⑤ 深夜 (22時—5時) 9% (男子24%、四大女子2%、短大0%)

(3) アルバイトの収入とアルバイトをする理由

1か月のアルバイト収入は次のとおりで、3万円から7万円程度のアルバイトの収入を得ている者が多い。男子学生では7万円以上の収入を得ている者がかなりいるが、女子学生では5万円以下の収入の者が半数以上を占めている。

- ① 3万円未満 17% (男子15%、四大女子14%、短大26%)
- ② 3万円から5万円 30% (男子17%、四大女子40%、短大35%)
- ③ 5万円から7万円 25% (男子25%、四大女子26%、短大25%)
- ④ 7万円以上 24% (男子39%、四大女子18%、短大10%)
- ⑤ 決まっていない 3% (男子3%、四大女子2%、短大3%)

アルバイトをする理由については、主な理由と複数回答で調査したが、その結果は次のとおりである。

	[主な理由]	[複数回答]
① 欲しいものを買うため	42% (男子32%、女子46%)	73% (男子58%、女子81%)
② 友人との交際費	13% (男子13%、女子14%)	55% (男子45%、女子62%)
③ 生活費の一部を稼ぐ	13% (男子15%、女子12%)	33% (男子39%、女子30%)
④ 生活費の大部分を稼ぐ	6% (男子11%、女子3%)	8% (男子15%、女子3%)
⑤ サークルの費用	6% (男子7%、女子5%)	22% (男子23%、女子22%)
⑥ 旅行の費用	6% (男子5%、女子6%)	25% (男子16%、女子30%)
⑦ 学生時代の経験のため	6% (男子6%、女子6%)	24% (男子22%、女子24%)

主な理由としては「欲しいものを買うため」が男女とも最も多く、「生活費」と「交際費」がこれに次いでいる。男子学生には、生活費を稼ぐためにアルバイトをしている者がかなりいるのに対して、女子学生の場合は生活費を稼ぐことを主な理由とする者は比較的少ない。

複数回答では、「交際費」をあげる者がかなり多く、特に女子学生では半数以上の者がアルバイトの理由として「交際費」をあげている。アルバイトをする理由に、「サークルの費用」や「旅行の費用」を上げる者も少なくない。特に女子学生では、旅行の費用を稼ぐためにアルバイトをしている者が比較的多い。

(4) アルバイトの適性と満足度

現在のアルバイトが自分の適性に合っていると思うかどうかについて尋ねた結果は、次のとおりである。

- ① かなりよく合っている 19% (男子22%、四大女子19%、短大15%)
- ② まあ合っている 52% (男子42%、四大女子54%、短大62%)
- ③ どちらとも言えない 17% (男子19%、四大女子17%、短大17%)
- ④ 合っていない 10% (男子15%、四大女子9%、短大4%)

「かなりよく合っている」と「まあ合っている」を合わせると7割を超えるので、現在のアルバイトは自分の適性と合っていると思う者が多いと言える。しかし、男子学生には「合っていない

い」と「どちらとも言えない」という者が比較的多く、男子学生の中には、必ずしも自分の適性に合っていないアルバイトをしている者のいることが分かる。

アルバイトの仕事の内容についての満足度は次のとおりで、「満足」と「まあ満足」を合わせると6割以上が満足している。この場合も、男子学生の方に、満足していない者が比較的多くみられる。

- | | | |
|-------------|-----|-----------------------|
| ① 満足している | 21% | (男子20%、四大女子20%、短大23%) |
| ② まあ満足している | 43% | (男子38%、四大女子49%、短大39%) |
| ③ どちらとも言えない | 20% | (男子19%、四大女子17%、短大28%) |
| ④ 不満である | 14% | (男子21%、四大女子12%、短大9%) |

(5) アルバイトについての意識とアルバイトから得たもの

アルバイトとして望ましい仕事については、望ましい仕事を3つまで選んでもらい、そのうち最も望ましいと思う仕事を1つあげてもらう方法で調査した。その結果は次のとおりであるが、「給料が高い仕事」と「職場の人間関係がよい」が多くの学生にとって望ましい仕事であることが分かる。その他では「休みが自由に取れる」と「家から近いところ」が望ましい仕事の要素になっている。

	[最も望ましい仕事]	[望ましい仕事3つまで]
① 給料の高い仕事	32% (男子36%、女子30%)	63% (男子64%、女子63%)
② 職場の人間関係がよい	28% (男子26%、女子34%)	61% (男子50%、女子68%)
③ 休みが自由に取れること	17% (男子24%、女子12%)	47% (男子45%、女子47%)
④ 家から近いところで働く	8% (男子6%、女子10%)	49% (男子48%、女子50%)
⑤ 将来の仕事に役立つこと	8% (男子7%、女子9%)	27% (男子16%、女子33%)
⑥ 仕事がきつくないこと	4% (男子4%、女子3%)	18% (男子21%、女子15%)

アルバイトから得たものについては、自由回答で調査したが、「お金の大切さが分かった」「社会勉強になった」など、プラスの評価をしている者が過半数を占めていた。一方「時間の無駄」「疲れるだけ」など、マイナスの評価をしている者もある程度みられる。アルバイトから得たものとして、比較的多くの学生があげていたものは次の5つである。

- ①「お金、お金の大切さ」、②「友人、仲間」、③「人間関係、上下関係の大切さ」、
④「礼儀」、⑤「社会の厳しさ」。

お金のためにアルバイトをしている学生の実態が浮彫りにされているが、アルバイトを通じて、お金の大切さが分かると同時に、人間関係や友人の大切さを認識できるようになる者が多く、学生時代における教室外の学習という面を何うことができる。

3. 学生生活について

(1) 小遣いとお金に対するイメージ

1か月に自由に使えるお金はいくらぐらいかをきいた結果は次のとおりであった。

- | | | |
|--------------|-----|-----------------|
| ① 1万円未満 | 7% | (男子6%、四大女子4%) |
| ② 1万円以上3万円未満 | 34% | (男子33%、四大女子34%) |
| ③ 3万円以上5万円未満 | 31% | (男子24%、四大女子37%) |
| ④ 5万円以上7万円未満 | 15% | (男子16%、四大女子17%) |

⑤ 7万円以上 12% (男子19%、四大女子 8%)

[この場合、全体の中には短大生も含まれているが、短大生の回答数が少ないため、短大生についての回答は表示していない。]

1か月の小遣いの額は2万円台と3万円台が多いが、人によってかなりの違いがあり、7万円以上使っている者も少なくない。1か月の小遣いの大雑把な平均金額を出してみると、全体では4万円、男子は4万2千円、女子は3万8千円になり、男子学生の方が小遣いの額はやや多いことが分かる。

自宅通学者と自宅外通学者との間には、小遣いの額にかなりの違いがあり、自宅通学者の平均が3万3千円であるのに対して、自宅外通学者の平均は4万5千円である。自宅外通学者の場合は、生活費の一部が含まれているものと思われる。

学生達の小遣いの使い道を知るため、ふだん何にいちばんお金を使っているかを尋ねた結果は次のとおりで、「サークル活動や交際」のために使うことが最も多い。しかし、女子学生の場合は「衣装代」に最も多く使っていることが分かる。また、小遣いの主な使い道が「趣味」である者は男子に比較的多いが、小遣いの主な使い道が「本や雑誌」「レコード・CD」である者は少ない。

① サークル活動や交際	28%	(男子24%、女子29%)
② 衣装代	23%	(男子 4%、女子33%)
③ 趣味	16%	(男子24%、女子13%)
④ 本や雑誌	8%	(男子12%、女子 6%)
⑤ レコード・CD	5%	(男子 9%、女子 2%)
⑥ 飲み代	4%	(男子 7%、女子 2%)
⑦ その他	16%	(男子19%、女子15%)

日常生活の中でのお金の価値を計るため、「ふだんの生活でお金のかかるもののうち、2千円では高いと思うもの」を次の中から選んでもらったところ、回答の多かった順に示すとおりである。

① 電車賃	87%	(男子82%、四大女子92%)
② 夕食代	66%	(男子67%、四大女子64%)
③ 本	62%	(男子55%、四大女子62%)
④ 使い捨てカメラ	56%	(男子60%、四大女子52%)
⑤ カラオケ	48%	(男子45%、四大女子46%)
⑥ 二次会費	28%	(男子22%、四大女子30%)
⑦ 傘	28%	(男子48%、四大女子19%)
⑧ Tシャツ	15%	(男子15%、四大女子13%)
⑨ 飲み代	11%	(男子 7%、四大女子16%)

男女とも、大部分の学生が「電車賃」を2千円では高いと意識している。「夕食代」は2千円では高いと思う者が多いが、「飲み代」の方は2千円では高いと思っている者は少ない。特に男子学生では、飲み代が2千円では高いと意識している者は非常に少ない。「二次会費」になると、2千円では高いと思う者が少し多くなるが、この場合も、女性の方が高いと思う者が多い。男女の違いが最も顕著に現れるのは「傘」で、女性の場合は2千円では高いと思うものは少ないのに対して、男性では半数近くの者が2千円では高いと意識している。「本」については、2千円で

は高いと思う者がかなり多いが、今日の学生は2千円出して本を買うことから遠ざかっているように思われる。

デートの時のワリカンについて調査した結果は次のとおりである。

- | | | |
|----------------------|-----|---------------|
| ① 当然のことだと思う | 55% | (男子51%、女子61%) |
| ② 男性が払うのが当たり前 | 1% | (男子3%、女子0%) |
| ③ 男性が払うべきだが、ワリカンでもよい | 19% | (男子22%、女子15%) |
| ④ 余計に持っている方が払えばよい | 15% | (男子12%、女子15%) |
| ⑤ その他 | 9% | (男子12%、女子8%) |

男女共に、ワリカンを当然のことと考えている。男性が払うのが当たり前だと考える学生はほとんどいない。男性が払うべきだと思いつながら、ワリカンでもよいとか、余計に持っている方が払えばよいとか、現実的な考え方が、現在の学生の間に行きわたっているように思われる。

(2) 好きなお酒と飲み方

酒は学生たちの生活の中に深く入り込んでいると思われるが、お酒が好きかどうかを尋ねた結果は次のとおりで、男女とも半数以上の学生がお酒は好きだと答えている。残りの人も、どちらとも言えない人が多く、お酒が嫌いという人は非常に少ない。

- | | | |
|--------------|-----|-----------------|
| ① 好き | 31% | (男子42%、四大女子25%) |
| ② どちらかといえば好き | 28% | (男子24%、四大女子34%) |
| ③ どちらとも言えない | 22% | (男子13%、四大女子28%) |
| ④ どちらかといえば嫌い | 15% | (男子16%、四大女子9%) |
| ⑤ 嫌い | 3% | (男子3%、四大女子3%) |

それでは、学生たちはどんなお酒を好んでいるだろうか。好きなお酒を尋ねた結果、比較的多くの学生に好まれていたのは次の3つである。

- | | | |
|--------|-----|-----------------|
| ① カクテル | 26% | (男子7%、四大女子43%) |
| ② ビール | 16% | (男子33%、四大女子6%) |
| ③ サワー | 16% | (男子13%、四大女子16%) |

女子学生に圧倒的の人気のあるのは「カクテル」、男子学生が好んでいるのは「ビール」である。この他、男子学生には「ウイスキー」(全体6%、男子13%、四大女子1%)を好む者が比較的多く、女子学生には「ワイン」(全体9%、男子4%、四大女子12%)を好む者が比較的多い。「日本酒」が好きな学生は比較的少ない(全体5%)

学生たちのお酒を飲む機会はどうだろうか。一か月に何回ぐらいお酒を飲む機会があるかを尋ねた結果は次のとおりである。

- | | | |
|------------|-----|-----------------|
| ① 1—2回 | 38% | (男子25%、四大女子44%) |
| ② 3—4回 | 22% | (男子28%、四大女子20%) |
| ③ 5—6回 | 9% | (男子12%、四大女子9%) |
| ④ 7—9回 | 6% | (男子9%、四大女子3%) |
| ⑤ 10回以上 | 8% | (男子13%、四大女子3%) |
| ⑥ 数か月に1回 | 9% | (男子6%、四大女子10%) |
| ⑦ ほとんど飲まない | 6% | (男子3%、四大女子7%) |

80%以上の学生が月に一度以上お酒を飲んでいる。女性は月に1—2回が最も多いが、男性は

月に3—4回が最も多い。女性に比べて、男性の方が飲む機会が多いことが分かるが、女性でも飲む機会のほとんどない人は非常に少ない。

お酒の飲み方としては、「大勢で賑やかに飲む」(30%、男子27%、四大女子26%)よりも、「小人数でゆったり飲む」(61%、男子64%、四大女子65%)方が男女とも好まれている。そして、どんな時にお酒を飲みたいと思うかを尋ねた結果は次のとおりである。

- | | | |
|---------------|-----|-----------------|
| ① 嬉しいことがあった時 | 35% | (男子28%、四大女子44%) |
| ② サークルのイベントの時 | 25% | (男子25%、四大女子22%) |
| ③ 飲まない日が続いた時 | 22% | (男子18%、四大女子26%) |
| ④ ストレスが溜った時 | 21% | (男子21%、四大女子25%) |
| ⑤ 悲しいことがあった時 | 15% | (男子10%、四大女子16%) |
| ⑥ スポーツで汗を流した後 | 11% | (男子24%、四大女子3%) |
| ⑦ 特に暑い時 | 10% | (男子15%、四大女子8%) |

男女とも「嬉しいことがあった時」にお酒を飲みたいと思う人が最も多い。男子では、「サークルのイベントの時」や「スポーツで汗を流した後」など、何か行動をした時にお酒を飲みたいと思う人が比較的多いものに対して、女子の場合は「飲まない日が続いた時」や「ストレスが溜った時」など、その時の気分で飲みたいと思う人が比較的多い。

お酒のプラスになる点としては、次の四つをあげる者が多い。

- | | | |
|--------------|-----|-----------------|
| ① 場が盛り上がる | 28% | (男子27%、四大女子30%) |
| ② 気分転換になる | 26% | (男子18%、四大女子29%) |
| ③ 相手の本音がきける | 18% | (男子19%、四大女子16%) |
| ④ 人間関係がうまくいく | 16% | (男子27%、四大女子10%) |

男女とも「場が盛り上がる」ことをプラスになる点としてあげる人が最も多く、現在の学生生活でのお酒の価値がよく示されている。一方、男子では「人間関係がうまくいく」など、友人との関係にプラスになるものを求める人が比較的多いものに対して、女子の場合は「気分転換になる」など、自分を中心にして考えている点に違いがみられる。

(3) 男女の問題

まず、特定の異性とつき合ったことがあるかどうかについては、大多数の学生が「つき合ったことがある」(81%、男子86%、女子78%)と回答している。男子の方が女子よりやや多いが、それ程の違いはなく、女子学生も特定の男性とのつき合いはかなり多い。

異性を、肉体的な対象と精神的な対象とに分けて、SEXと恋愛は別だと思うかどうかを尋ねた結果は次のとおりである。

- | | | |
|-------------------|-----|---------------|
| ① SEXと恋愛は別だと思う | 45% | (男子63%、女子33%) |
| ② SEXと恋愛は別だとは思わない | 52% | (男子35%、女子63%) |
| ③ わからない、無回答 | 3% | (男子2%、女子4%) |

全体では、ほぼ半々に意見が分かれているが、男子では、SEXと恋愛は別だと思う者が多いものに対して、女子の場合は、そうは思わない者が多く、対照的である。SEXについて、どのような考えを持っているかを尋ねた結果は次のとおりである。

- | | | |
|---------------|-----|---------------|
| ① 二人の愛情の証 | 40% | (男子31%、女子48%) |
| ② お互いを知るための一つ | 32% | (男子35%、女子30%) |

- ③ 性欲を満たすもの 13% (男子19%、女子 8%)
 ④ ゲームのようなもの 5% (男子 7%、女子 2%)

「二人の愛情の証」と「お互いを知るための一つ」という回答が多く、特に女子の場合は、およそ半数が「二人の愛情の証」と答えている。つまり、女性にはSEXを二人の愛情の証と考えている人が多いことを示している。一方、SEXは「性欲を満たすもの」という考えは男性に多く、このような考えは男性的な考え方であることが分かる。一部のマスコミで伝えられているように、SEXを「ゲームのようなもの」と考える人は非常に少なく、このような考え方はごく一部の者の考えであることが分かる。

—SEXが必要かどうかについての考え方も、男女で対照的である。全体では、SEXは「必要である」43%、「あってもなくてもよい」52%であるが、男子では、「必要」64%に対して、「あってもなくてもよい」33%と、必要と考える人が多い。一方、女子では、「必要」29%に対して、「あってもなくてもよい」66%と、必要と考える人は少ない。

現在の学生は、男女のどちらの方がよいと思っているかを明らかにするため、「生まれ変わるなら、男と女のどちらの方がよいか」を尋ねたところ、次のような結果であった。

- ① 男に生まれ変わりたい 51% (男子66%、女子40%)
 ② 女に生まれ変わりたい 30% (男子17%、女子41%)
 ③ どちらとも言えない 18% (男子17%、女子19%)

全体的には、男に生まれ変わりたいと思う者がちょうど半数を占めている。男性では、男に生まれ変わりたいと思う者が圧倒的に多いのに対して、女性では、男に生まれ変わりたいと女に生まれ変わりたいとがほぼ半々である。一昔前には、男に生まれ変わりたいと思う者が圧倒的に多かったことを考えると、今日では、女性の良さが広く認識されてきたことを示すものと思われる。それでは、どのような点に男の良さを認めているのだろうか。男性の方が良いと思う点として多くの方があげているのは次のとおりである。

- ① 仕事の上で条件が良い 24% (男子23%、女子24%)
 ② 夜遅くまで遊べる 17% (男子15%、女子19%)
 ③ 体力がある 16% (男子18%、女子15%)
 ④ トイレが便利 8% (男子13%、女子 3%)
 ⑤ その他 17% (男子23%、女子15%)
 ⑥ わからない、無回答 18% (男子 9%、女子25%)

就職の時にしばしば問題にされることであるが、仕事の上で男の方が条件が良いことをあげる者が、男女とも最も多い。男性の良さとして、夜遅くまで遊べることを上げる者が女性に多いことは、現在の若い女性の気持が正直に反映されていると思われる。

一方、女性の方が良いと思う点として多くの方があげているのは次のとおりである。

- ① ファッションを楽しめる 18% (男子10%、女子25%)
 ② 子供を産める 14% (男子 8%、女子18%)
 ③ 美しくなれる 9% (男子12%、女子 8%)
 ④ 仕事をしなくてもよい 9% (男子10%、女子 8%)
 ⑤ 甘えられる 8% (男子 7%、女子 9%)
 ⑥ 女性特典の店が多い 7% (男子 7%、女子 8%)
 ⑦ その他 5% (男子 7%、女子 4%)

⑧ わからない、無回答 30% (男子41%、女子21%)

「ファッションを楽しめる」や「美しくなれる」など、女性の美しさに基づく点をあげる者が多いが、「子供を産める」という女性の特権を上げる者は、男性よりも、女性の方に遙かに多くみられる。「女性特典の店が多い」点をあげたところなどは、若い女性の特徴がよく現れている。

4. キャンパスの若者像

文教大学湘南キャンパスで生活する学生を対象とした調査の結果に基づいて、学生たちの課外活動、アルバイトの実態、その他学生生活のいくつかの面について考察してきた。ここで、今日のキャンパスの若者像の特徴をまとめてみたい。

課外活動の面からみると、体育会や文化会などの伝統的な部活動への参加はそれ程活発ではないが、気の合った友人たちの集まりであるサークル活動はかなり活発に行われている。そして、サークル活動を通じて友達と一緒に行動する喜びを感じている学生が非常に多いのが実情である。日常のサークル活動に不満がないわけではないが、サークル活動なしにはキャンパス生活は考えられないと言ってもよいのではないだろうか。

次に、アルバイトも、今日の学生の生活の中では欠かせないものになっている。アルバイトの種類では飲食店やコンビニの店員などが多く、大学生の知識・経験を生かしたアルバイトをしている学生が少ないのは残念である。しかし、大部分の学生が何らかのアルバイトを経験しており、欲しいものを買うためや交際費のためだけでなく、アルバイトが学生時代の一つの社会勉強としての役割を果たしていることも見逃せない。

その他の学生生活では、今日の学生の小遣いは、サークル活動や交際に使われることが多いようで、女子学生の場合は、衣装代にもかなり使っている様子が伺われる。しかし、かつての大学生のように、本を買うために使っている様子はあまり見られない。一方、お酒もまたキャンパスの若者にとっては欠かせないものになっており、それ程頻繁ではないものの、何かの機会に友達との飲み会を楽しんでいる様子が伺われる。

最後に男女問題であるが、男子学生と女子学生との交際は、現代風に健全に行われているように見える。大多数の学生が特定の異性とのつき合いをしていると同時に、サークルを通じて大勢で楽しむ雰囲気も経験しており、その中で愛情やSEXについての考え方も成長していることが伺われる。

キャンパスの若者たちは、積極的に社会をリードしようとする学生は少ないにしても、世の中の動きに取り残されることなく、時代の流れの中で、日常のさまざまな面での経験から処世術を学び取り、学生生活を楽しんでいるようである。

(情報学部教授)